

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21820058

研究課題名（和文）モンゴル時代華北における系譜伝承と碑刻

研究課題名（英文）Genealogies on the Stones: Recording and Imagining Family History in North China under Mongol Rule

研究代表者

飯山 知保 (IIYAMA TOMOYASU)

早稲田大学・文学学術院・助教

研究者番号：20549513

研究成果の概要（和文）：

山西・陝西・河南北部における積極的な現地調査の実行により、通常「先塋碑」などと呼ばれる関連碑刻を多く実見することができ、またその現存状態もおおよそ把握した。当初予想していた通り、数量的には山西省がずば抜けて多く、保存状態も良好である。このため、山西大学の学者たちとの協力関係を強化し、あわせて多くの学会発表を行い、アメリカ・中国・韓国の学者たちと、将来的な金元時代華北社会史研究の共同研究にむけたチーム組織を確認した。今後の研究の基礎は構築された。

研究成果の概要（英文）：

Through conducting several field researches in mainland China, I investigated numerous Jin-Yuan stone inscriptions with genealogies curved on their back side (they are usually called Xianying bei, literally meaning the “stone inscription of ancestral graveyard.”) and as a result could have a clear grasp of the present state of the stones still standing in Shanxi, Shaanxi, and northern Henan. As I had expected, Shanxi had outstanding number of the stones and they have been relatively well preserved by local government in general. Basing on this preliminary investigation, I decided to strengthen the connection with scholars at Shanxi University in order to better investigate and record the Shanxi stones and had several meetings with them at international conferences held in mainland China. At the same time, I did three presentations in English at the conferences in Korea, Japan, and the US and could organize a team with US, Chinese, and Korean scholars for future joint research on the Jin-Yuan northern Chinese social history.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	620,000	186,000	806,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,220,000	366,000	1,586,000

研究分野：東洋史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：系譜伝承、碑刻、宗族、華北社会、モンゴル時代

1. 研究開始当初の背景

モンゴル時代の社会に関連して、明確な知見の得られてない懸案のひとつに、宗族形成の展開とその地域間での差異があった。贅言

するまでもなく、古代の宗法に基づきつつ、科挙制度の確立と浸透に代表される新たな社会秩序に対応すべく現れた宋代以降の宗族は、いご明清時代に至るまで中国社会の秩序構造

に多大な影響を及ぼす親族・社会組織であり続けた。彼らは族産の設立や祠堂・義荘の運営による一族の結集を行うなど、自らの社会的地位の維持・向上に努める一方、自らの系譜の記録・伝承にも注力し、南宋時代からモンゴル時代にかけての南方中国、とくに江西では、家譜の編纂が徐々に士人家系の間に普及してゆく。

こうした宗族の形成とその社会への浸透について、関連する先行研究は文字通り膨大であるが、その大部分は家譜・族譜を中心として豊富な史料が伝存する南方を対象とし、とくにモンゴルの支配下にあった時期の北方（華北）の状況については、現時点で知りうるものがほとんどなかった。かかる状況の原因のひとつには、南方で編纂が普及した家譜などの、家系の系譜の伝承を目的とした文献資料が、同時期の華北ではほとんど伝存しないことがあった。

2. 研究の目的

こうした現状を踏まえ、本稿では華北「宗族」研究を今後進展させるための基礎史料群を構築する試みとして、碑刻史料集や文集・地方志などに移録される碑刻史料を主に用い、従来知見の乏しかったモンゴル時代華北社会における系譜伝承のあり方を明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

モンゴル時代の華北に多く確認される、墳墓の傍らに立てられた「先塋碑」などと呼ばれる碑刻史料にとくに着目し、関連する神道碑や墓表とともに考察を加える。従来全く研究の対象になってこなかったが、こうした碑刻史料の裏面には、通常「宗支図」「宗譜図」などと記される系譜・系図が刻まれており、そのほとんどは族譜・宗譜などの系譜資料をほぼそのまま石に刻むという形式をとっている。すなわち、文献資料としての系譜は、華北ではほぼ伝存していないものの、石刻という形では数多く残されており、上述した華北「宗族」研究の資料的不備を大いに補足する可能性を具えている。本研究ではこうした新資料を収集・分析し、それらがどのような目的で作成され、当時の華北における家系の系譜伝承とどのような関係にあったのかを明らかにし、華北「宗族」をその親族構成の理論から内面的に研究した。

4. 研究成果

2009年度

2009年8月に山西省で現地調査を、天津と北京で研究報告および講演を行い、山西大学中国社会史研究中心の張俊峰副教授および山西師範大学戯曲文物研究所の車文明所長に自らの研究計画を具体的に説明し、今後毎年度

の春季と夏期に、その協力を得て碑刻の調査を行えることとなった。両者の援助をうけ、2010年3月には、山西省臨汾市と太原市、そして代県の領域で碑刻の現地調査を行った。

また、近年華北においては、11~14世紀の墳墓に対する発掘が盛んに行なわれつつあり、副葬品などの出土文物のみならず、墓室の建築様式や壁画の様式や題材などから、当時の人々の心性や世界観に具体的な検討を加えることが可能となっている。申請者は北京留学中から交流のあった、この分野における新進気鋭の若手研究者である北京大学考古文博学院の劉未氏と、2010年8月に中国湖北省武漢大学で行なわれた学会で関連問題について議論し、今後華北墳墓に関する共同調査を行なうことで合意した。

さらに、中国・韓国・台湾・日本の国際学会において、英語・中国語で積極的に学会発表を行って自らの研究成果を発信するとともに、今後の研究にまつわる国際的な学術交流と協力体制の構築につとめた。

2010年度

まず、現地調査に関しては、今年度は2月27日から3月7日まで、陝西省銅川市において、本研究が考察対象とする“先塋碑”などの碑刻史料に対する実見調査を行った。その結果、当該地域における碑刻の伝存数や、その状態などを詳細に把握することができた。さらに、たんに金元時代の碑刻を確認するとどまらず、その明清時代から近現代にいたまるまでの伝存過程、そしてこの30年間における保存状態の変化まで、モノとしての碑刻を通時的に把握するために必要不可欠な知見を蓄積することができた。端的にいうと、陝西での状況は、山西などの他地域とは、保存への努力や文物としての碑刻に対する人々の認識など、あるいは碑刻が立っていた寺院や廟などの地域社会における存在感などの点で、かなり異なり、同じ華北といっても、碑刻を扱う際にはその来歴に十分な注意を払う必要性を強く惹起するものであった。

また、調査には陝西師範大学歴史系の李大海講師も参加され、その期間中に同大学で学術交流会が行われた。その席上、陝西省における歴史人類学・環境史・社会史研究および現地調査に長年従事し、各方面に広い影響力を有する多くの研究者と面識を得、今後の調査における協力関係を築くことに成功した。

また、積極的に国外での学会に参加し、下記の「研究成果発表」で示すように、アメリカ・中国・韓国で積極的に5回の研究報告を行い、自らの研究成果を参加者と共有するとともに、今後の国際的な協力関係の礎となる人間関係を構築することができた。

関連論文は2本がそれぞれ韓国の学術誌で発表された。さらに、金元時代華北における

科举制度と在地有力者層の關係を検討した自著を、早稲田大学出版部から刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

1. 飯山知保 「蒙元統治下華北社會與”土人”教育的變遷」 (中国語), 『中國史研究』 (韓国「中國史學會」編纂), 第70輯, pp.61-73, 2011年2月.

2. Tomoyasu Iiyama, "Two Troubles in the North: Environment and Imagining Northern Literati during the Song-Ming Period," (英語) *The Journal Performative Humanities*,

vol.40-1, pp.104-121, June, 2010. □3.

3. 飯山知保 「金代科举制度變遷与地方士人」 (中国語), 『科举学論叢』, 第1輯, pp.12-27, 2010年3月.

[学会発表] (計 10 件)

1. Tomoyasu Iiyama, "Mongols, Confucians, and the Dragon Lord: The Ritual Transformation of a Non-Han Community in the Yuan, Ming and Qing," in session 129, "Ritual and Community in Late Imperial and Contemporary China - Sponsored by the Society for the Study of Chinese Religions," in Joint Conference of the Association for Asian Studies & International Convention of Asian Scholars, Hawaiian Convention Center, Honolulu, USA (英語), March 31, 2011.

2. 飯山知保 「蒙元統治下華北社會與”土人”教育的變遷」, "教育를 통해 본 中國史": 中國史學會第11回國際學術大會, 大邱: 慶北大學校愚堂教育館 (大韓民国, 中国語), 2010年9月10日.

3. Tomoyasu Iiyama, "Adapting to Survive: Local Elites and Office-Holding under the Jurchen and Mongol Rule in Dingxiang County, Shanxi," 挑戰與回應: 九至十四世紀中國

史的演變與理解國際學術研討會, 台北: 長庚大學 (中華民國, 英語), 2010年8月28日.

4. 飯山知保 「金元時期華北的系譜承傳與碑刻」, ”碑刻所見宋金時期的華北地方社會”論壇: 中國十至十三世紀歷史發展國際學術研討會暨中國宋史研究會第十四屆年會, 武漢: 武漢大學珞珈山莊 (中華人民共和國, 中国語), 2010年8月21日.

5. 飯山知保 「"根口"與"僥倖"之間: 蒙元時期在華北的求官活動」, "中古時期的日常秩序"國際青年學術研討會, 北京: 北京大學靜園二院 (中華人民共和國, 中国語), 2010年8月17日.

6. Tomoyasu Iiyama, "Chinese Local Elites between Two Cultures: Reexamining the Northern Local Literati under the Jurchen and Mongol Rule," Contact Zones of Empires in Asia and Europe: Complexity, Contingency, Causality: 6th ESF-JSPS Frontier Science Conference for Young Researchers, Kyushu University, Fukuoka, Japan (日本, 英語), Feb 28, 2010.

7. Tomoyasu Iiyama, "Two Troubles in the North: Northern Literati and Imagining the Environment in the Song-Ming Period," Humanities and Ecology: 1st East-Asia Humanities International Conference, Hanyang University, Seoul, Korea (大韓民国, 英語), Dec 20, 2009.

8. 飯山知保 「金代科举制度變遷与地方士人」, 第五屆”科举与科学学”研討会, 札幌: 北海道大学 (日本, 中国語), 2009年8月27日.

9. 飯山知保 「中国社会史上的”南方模式”与”北方模式”」, 北京大学中国古代史中心學術講座, 北京: 北京大学中国古代史研究中心 (中華人民共和國, 中国語), 2009年8月24日.

10. 飯山知保 「金元時期的禩山段氏—十一～十四世紀山西汾水下游地区的”地方士人”的延

続と変質―」, ”断裂与連続:金元以来的華北社会文化国際学術研討会”, 天津: 南開大学 (中華人民共和国, 中国語), 2009年8月21日.

〔図書〕 (計1件)

飯山知保『金元時代の華北社会と科挙制度—もう一つの「士人層」—』 (ISBN 978-4-657-11706-9), 東京: 早稲田大学出版部, 434 pp, 2011年3月30日.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯山知保 (IIYAMA Tomoyasu)

早稲田大学・文学学術院・助教

研究者番号: 20549513